

経営比較分析表（令和6年度決算）

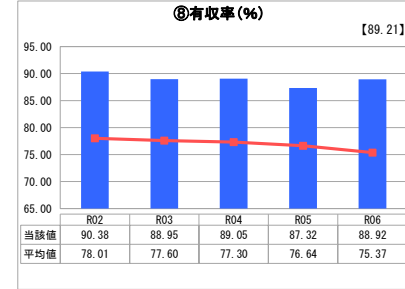
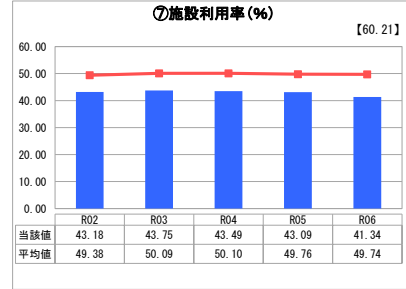
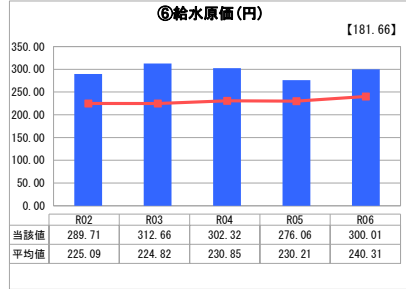
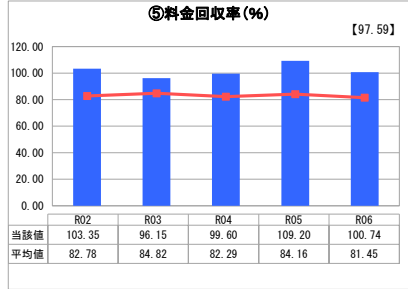
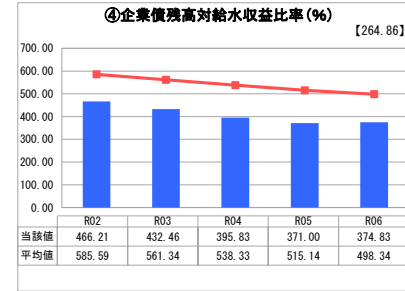
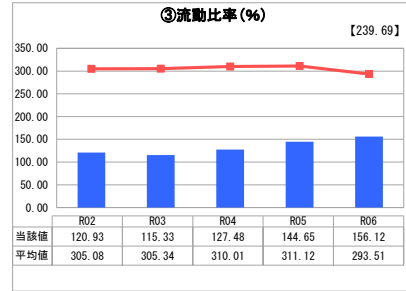
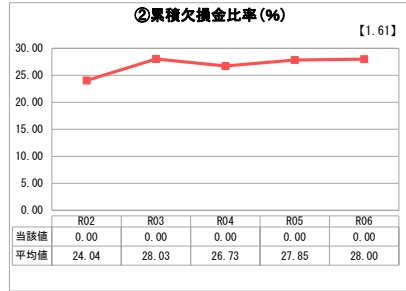
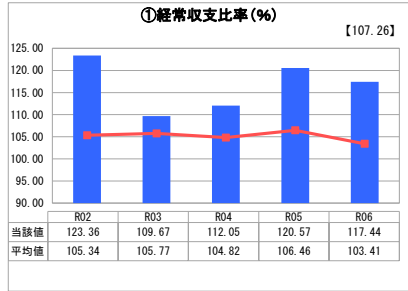
宮城県 丸森町

業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.54	78.85	5,010	

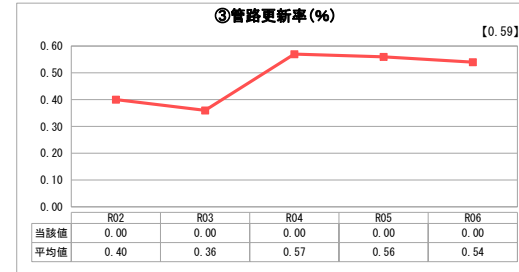
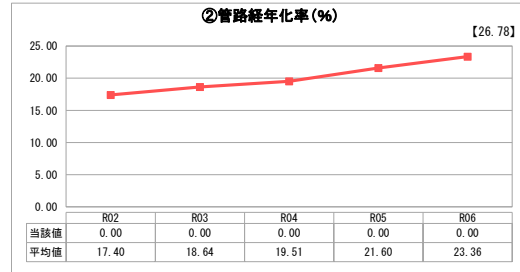
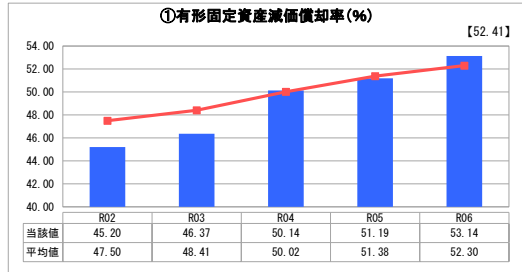
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
11,571	273.30	42.34
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,027	49.65	181.81

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 經常収支比率は100%を上回っている。今後は、給水人口の減少や節水型社会への移行により水道料金収入の減少が見込まれるため、経費節減や財源確保に努める。
- ② 累積欠損金はこれまで発生していない。
- ③ 毎年度100%を上回っており、支払い能力は備えている。
- ④ 償還が進み比率は減少しており、平成30年度から同規模事業体を下回っている。施設更新及び老朽管更新による起債である。
- ⑤ は100%を上回っており、給水に係る費用は給水収益でまかなえている。
- ⑥ 有収水量1mあたりの給水原価は、同規模事業体に比べ高い水準であるため、今後は維持管理費の削減などの検討が必要である。
- ⑦ 施設利用率は同規模事業体平均に比べ下回っており、今後施設の見直し、ダウンサイジング等の検討が必要となる。
- ⑧ 有収率は横ばい傾向であり、同規模事業体平均を上回っている。今後も計画的に老朽管の更新を行っていく。

2. 老朽化の状況について

- 平成11年度から平成14年度に実施した石綿セメント管更新事業により、ほとんどの石綿管は布設替えを終えている。
- その他管理についても、計画的に更新しているため管路経年化率は低い。今後も緊急性や重要度の高いものから計画的に更新を行いたい。

全体総括

令和元年度は令和元年東日本台風の影響により厳しい状況だったが、令和2年度以降は以前の経営状況に戻り全体的な水道事業経営は概ね安定していると考えられる。しかし今後は、施設の老朽化に伴う更新事業が増加することを踏まえると、更新に係る費用と経営状況を把握しながら、経営戦略に基づき計画的な施設の更新や料金改定について検討を行う必要がある。